

目的 低蛋白食でウットを継代飼育すると、累代的に蛋白欠乏に強い動物（低蛋白累代適応ウット）が現われるか否かを調べる為には本研究を行なっている。甘藷を主食とし、低蛋白累代適応状態と考えられるパプアニューギニア高地民の場合、血液性状は正常であり、又彼らの血漿蛋白分画は特異で $\alpha_2$ 及び $\beta_2$ -Glbの上昇を認めた（小石ら）。そこで、我々は低蛋白継代ウットについて、成長観察と共に血液性状の検索も行なった。

方法 雄雄のWistar系ウットを離乳直後より7%Casein食で飼育・継代し（L群）、対照群（C群）としては、20%Casein食で飼育した動物を用いた。これらの動物の内、(1) C群及び低蛋白一代群（L1）の成長及び寿命の比較 (2) 低蛋白継代群（L1, L2, …, L7）の体重・摂食量を測定 (3) 一般血液性状検索即ち、東亜Systemexにて、赤・白血球数、Ht、Hb濃度を測定し、又血漿蛋白濃度（TP）はbiuret法、血漿Alb濃度はBCA法、血漿Cholesterol濃度は酵素法にて分析、HDL-cholesterolはデキストリン硫酸Mgで分画した。又赤血球の浸透圧抵抗試験も行なった。

結果 (1) 20%食C群と7%食（L1）群のウットの寿命は変らなかつた。(2) 低蛋白食で継代々数を重ねると成長速度の遅い、体型の小さい成熟ウットができてくるようで、これも一種の適応現象と考えられ、又摂食量は体重に比例する傾向が観られた。(3) 血液性状ではHb及びTP・Alb濃度はC群に比べL群で低値を示したが、Glb濃度は一定の傾向を示さなかつた。又赤血球の脆弱性はL群で低下傾向を示した。